



# これからちいろば 〜評価から見えた未来〜

「福祉サービスの質の向上」を目的とした3年に一度の第三者評価を受審しました。現行の福祉制度への移行時は15名の利用者からスタートでしたが現在では27名の方が利用されています。



今回で5回目の受審となり改善が必要な書類の整備や職員体制も整ってきました。引き続きの課題としては作業環境の整備と利用者の高齢化、生活スタイル、社会情勢の変化に対応した支援に取り組む必要があります。



**とうきょう 福祉ナビ**

<https://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>

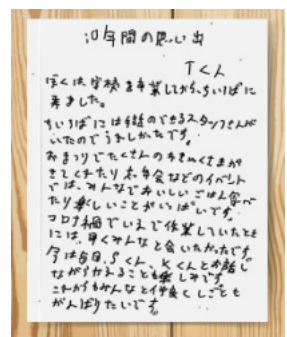
第三者評価結果は  
左上のQRコードから  
上記のアドレスから  
どなたでも閲覧す  
ることが出来ます



一人ひとり求めるものが違うため判断に迷うことも多くあり、中長期的な展望を立て対応していく必要があります。これからも地域の方々や関係機関と連携しながら、利用者、支援者、お客様も含めてちいろばに来ることで少しでも心が満たされる「家」になるようにニーズの変化に対応したサービスを提供できるよう取り組みんでいきたいと思えます。（評価結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」に公表されます）  
(文責 ひらまつ)

# 10年間の思い出 仕事が好き・ともだちが大好き

ぼくは学校を卒業してから、ちいろばに来ました。ちいろばには手話のできるスタッフさんがいたのでうれしかったです。ちいろばまつりでたくさんのおきやくさまがきてくれます。コロナ禍ではいえず、早くもみんなと会いたかったです。今はSくん・Kくんとお話しながらかえること



『ちいろばでの日々と喜び』  
Tくんのこれからの決意



今年5月、ちいろばは創業42周年、東寺方移転20周年という節目を迎えます。20年の歩みの中で、多くの出会いと経験を重ねてきました。私たちは

# 節目に寄せて 42周年・移転20周年の感謝と歩み

「力を合わせて困難を乗り越えること」と「人や物を大切にすること」を大切にしてきました。変化の大きい今だからこそ、その想いの重要性を強く

もたのしみです。これからもみんなと仲良くしごともがんばりたいです。  
ペンネーム Tくん

★★★★★★★★★  
T君が仲間の輪に入り「なに？」と尋ねるのは、自分も仲間の一員でいたいという願いと、聞こえないことで生まれる不安を解消したいという思い、その両方があるのではないでしょうか。彼はきっと、仲間に入りたいたいという純粋な願いと、今何が起きているのか分からない不安をなくしたいという、二つの思いを抱えているのだと思います。  
(文責 ちぐさ)

感じています。9月にはちいろば祭りの開催を予定しており、皆さまと共に迎えられることを願っています。これまで支えてくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今後歩み続けてまいります。  
(文責 いしだ たく)



4月 April						
日	月	火	水	木	金	土
29	30	3/31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	5/1	2

5月 May						
日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	4/30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
休み	休み	休み	休み			
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	6/1	2	3	4	5	6

6月 June						
日	月	火	水	木	金	土
5/31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	7/1	2	3	4

最新情報は  
こちらQRコードで  
確認を

# シリーズ ひとりのおもいが人々のこころをうごかす ボランティアから「会社体系」への変身

ボランティアから「会社体系」への変身一九八九年、リーダーの石田さんは「ちいろばの会」を、ただのボランティア団体から「しっかり稼いで自立する会社（事業体）」へと「ちいろばの会」メンバーとともに大きく変える決断をしました。石田さんの最初の仕事は、活動を長く続けるためのお金（助成金）を賢く手に入れることで



▲自立をめざす仕事（イメージ こんなに広くなかったなあ）

した。当時、障がいを持つ人が働く場所といえば、リハビリに近い「作業所」が一般的でした。しかし、石田さんが選んだのは、国から「ちゃんとした会社」として認めてもらうことで得られる特別な助成金でした。この選択には、大きな意味がありました。国からそのお金をもらうためには、次の2つの厳しい条件をクリアしなければならなかった

（最低賃金）以上を必ず支払うこと。当時の「ちいろばの家」は、すでに時給八百円（当時の基準ではかなり高い金額）を超える給料を払えるほど成長していました。このハードルを軽々と乗り越えたことで、石田らは「お世話をしてもらおう福祉施設」ではなく、社会に認められた「一前の企業」としてのスタートを切ったのです。

つづく  
（文責 ちぐさ）

## 応援ありがとうございます ご寄付のご報告です

皆様からの寄付品は、利用者と共に清掃・修理し販売しています。収益は運営費と利用者の工賃に充てています。今後もご支援をよろしくお願いいたします。

- 回収件数 270件
- お持込件数 2254件
- 宅急便件数 15件

累計期間（2025年12月～2026年2月）

障がいのある人たちが義務教育を終えた後の進路が限られていた時代、もう一つの居場所として「ちいろば」が生まれました。今年で43年、東寺方に店を構えて20年の歳月が流れました。多くの方々に支えられながら歩んでこられたことに、深い感謝の思いを抱いております。これからも「物を大切に、人を大切に」の心を大切に歩



み続けてまいります。ここに改めて、皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。（文責 千種）



寄付品 送り先  
206-0003  
東京都多摩市東寺方 1-16-3  
電話：042-372-3015  
ちいろばの家



● 書き損じはがきや使わなくなった切手を寄付もお待ちしております。